

酒田市と黒竜江省の交易の現状と将来

—東方水上シルクロードの将来性—

山 田 光 矢 (国土館大学)

山形県の国際交流および交易のシンボルとしての「東方水上シルクロード」

1992年に第一船が酒田港に入港した「東方水上シルクロード」は、黒竜江省ハルピソ市の松花江にある港から、松花江～黒竜江（アムール川）～日本海を経て酒田港へ至る、全長約2,800kmの航路である。この航路は新潟・ナホトカ間772kmや、新潟・ウラジオストク間841km、新潟・釜山間961km等と比較すればかなり長いルートということになる。しかしそれまで黒竜江省と酒田港の交易は、ハルピン～大連～酒田港の約3,600kmを利用して行われていたことから見れば、約1,000kmも短縮したルートということになる。

東方水上シルクロードは酒田市が地域活性化のシンボルの一つとなっている。中国やロシア共和国あるいは北朝鮮の対外開放政策の表明や、ベルリンの壁の崩壊が象徴する社会主義諸国の自由経済への移行の可能性は、太平洋側に比べて発達の遅れていた日本海側の都道府県に、発展の可能性をつける明かりとして映ったのである。酒田港の利用率から見て、現在の黒竜江省との交易は微々たるものであるが、こうした背景が東方水上シルクロードを酒田市を中心とした庄内地域の経済発展のシンボルとなっているのであり、山形県友好県省の締結を通じてバックアップしているのである。

庄内地方の企業が黒竜江省と交易を行う上で

問題となったものは、大連港がボトルネックとなっているという点であった。中国東北地方の物流の拠点が大連のみであったことから、平田牧場は直接黒竜江省から荷物を酒田港へ運ぶルート考えたのである。他のルートとして、道路や鉄道を利用してロシア側の港に運びそこから輸入することや、図們江（豆満江）の開発も考えられるが、インフラの点や冬期間の氷結等の問題があったことから、東方水上シルクロードは注目されたのである。

しかし現在では大連市は大黒湾港の整備（5万トンのコンテナバース100の建設を計画）を急いでいるように中国国内のインフラの整備は驚くべき早さで進んでいる。そこで季節や量に制限のある東方水上シルクロードの利用が必ずしも拡大しない危険も見られる。また地球温暖化はこれまで締結していた港を不凍港にしていることから、ロシアの港の利用も拡大する可能性がある。

また酒田港は1995年から釜山港と定期航路で結ばれた（当初週1便、現在は2便）ことから、貿易量が飛躍的に拡大し、東方水上シルクロードの交易量のパーセンテージは低くなっている。ただし中国の近代化の進展度が今後の東方水上シルクロードの性格を決定することになる。そこにどのような可能性があるかをきちんと探っていくことが、シンボルからの脱却につながっていくと思われる。

東方水上シルクロード関係史

1 東方水上シルクロード前史

1975年頃：平田牧場（本社・酒田市）・中国東北地方から羊腸の輸入を開始

1979年：中国が経済開放政策への転換を表明

1983年：酒田港に5万トン岸壁完成

1986年：ゴルバチョフが「ウラジオストク」演説を行う

1987年：平田牧場・黒竜江省からの畜産関係の研修生を受け入れ、同時に三江平原における牧場経営の合併企業設立交渉を開始、交渉の経過の中で七大河市長よりトウモロコシの輸入を要請される、大連港の混雑が障害となり新たな輸入ルートを模索 → ハバロフスク地方の担当者が黒竜江省と酒田港の水上ルートを利用した交易を了承

1992年：5月29日・東方水上シルクロード開設正式調印

(2) 東方水上シルクロード開設後の歴史

1992年：8月4日・東方水上シルクロード経由の第一船が酒田港へ入港

12月1日・「東方水上シルクロード貿易促進協議会」設立

1993年：8月10日・山形県が「山形県・黒竜江省友好県省」締結、初の帰り荷としてサンフランシスコ港から積み出された55台のアメリカ製中古車を石巻港・山形・酒田経由で運び

中国に輸出

1994年：黒竜江省が窓口として「中国黒竜江省江海連運促進強調委員会」を設立、酒田港独自の取り扱い帰り荷として中古農機具10台を輸出、中国がトウモロコシの禁輸に踏み切り5回の輸入予定が3回で中断

1995年：4月・「黒竜江庄安肴果有限公司」（椎茸の生産・販売）「黒竜江富佳農業機械修造有限公司」（中古農機具の販売・修理等）「中国外運黒竜江酒田国際コンテナ輸送有限公司」[いずれも合併企業]設立

5月・韓国釜山港との間のコンテナ定期航路開設

6月・第8回ハルビン経済貿易商談会へ山形県初参加（21の県内企業と団体が参加）

1997年：6月・東方水上シルクロード貿易促進協議会ハルビン駐在連絡事務所開設、東方水上シルクロードを利用したトウモロコシの輸入再開

8月・日中航空交渉でハルビン空港からの中国側定期便の乗り入れ先を6地点とする交渉が妥結

10月28日・東方水上シルクロード貿易促進協議会設立5周年式典開催

1998年：庄内空港とハルビン空港で年間13便のチャーター便を運行(来年も予定) → 定期便の乗り入れ先として新潟、岡山、福島、富山、新千歳は決定